

知って理解してほしいこと

中 一

僕自身は、誰からも偏見をもたれたり差別を受けたりした経験はない。しかし、父は、身体的なことですら思いをしたことがある。

人は、自分と違っていたり理解できなかったりすることがあると、偏見をもち、差別して傷つけてしまう残念な一面をもっている。

僕の父は、子どもの頃に腎臓を悪くして、僕と同じ中学生の頃には、院内学級※に行かなくてはならないほどになってしまった。しかし、近くの院内学級は定員がいっぱいで入れないので、やむを得ず、親に送迎してもらいながら、地元の学校に通っていた。

当時、父は、運動はもちろん、掃除をすることもできない身体だったのだが、そのことを担任の先生に理解してもらえず、「掃除さえもできなくなってしまうのか？」などというひどい言葉を浴びせられたそう。また、林間学校を前にして、

飯盒炊さんの練習をみんなですていたときは、

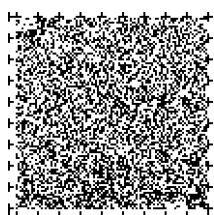
「君は見ていればいい。」

と言われた。そして、みんなが楽しそうに飯盒炊さんの練習をしている様子を、離れたところからポツンと一人で眺めていたそう。

これは父が中学生の頃の、もう三十年も昔の話だが、僕はこの話を聞いて、とても悔しかった。そして悲しかった。でも、僕の気持ちが変わった気がしたのは、父に対する心ない先生の言葉や扱いに、

「僕は、A君が先生にあんなことを言われて、悔しかった。」

と言ってくれた友達がいたと聞いたからだ。父も、そういう友達がいてくれて、とてもうれしかっただろう。あまり人に話したことはないのだが、父は外見からはわからない内部障害者※だ。そのために、著しく運動能力が低下していて、走ったり、坂道や階段を上ったりすることはもちろん、重い荷物を持つことなど、身体に急激な負担をかけてしまうことを制限されている。父のような内部障害者は、外見からは見



分けがつかない。見た目は健常者と変わらないため、仕事や電車の優先席利用など、社会生活をする上で、誤解や差別を受けやすい立場にあるそう
だ。事実、父は学校の先生からの理解を得ることができなかつた。僕には何も言わないが、そのこと
とで多くのことをあきらめたりつらい思いや悲しい
思いをたくさんしたりしてきたはずだ。

社会の多くの人たちにとって、内部障害という
見えない障害について知る機会はあまりないのだ
そう。そして、知らないということが、障害への
理解が進まない原因の一つであるという。恥ず
かしいことだが、僕自身、何も知らなかつた。だ
から、僕は、何よりもまず知ってもらおうことが、
この障害の理解への第一歩ではないかと思う。そ
して、障害がある方の気持ちを考えるとなかなか
難しいことかもしれないが、見えにくい障害だか
らこそ、自分自身で知らせる勇氣が必要なのでは
ないか。そうは言っても、病気の種類や名前、ど
んな症状なのかを、その都度詳しく説明すること
は、困難なことだという。僕もそうだなと思う。

二〇〇四年に、内部障害者や内臓疾患がある人

たちによって、ハート・プラスマークと
いうものが作られた。これは、目に見え
る障害だけでなく、身体の中の障害に苦
しむ方々のためにということで作られたマークだ。
思いやりの心をプラスするという意味を表してい
て、車いすマークや耳マークのように、周囲の人
の配慮を促す試みなのだそうだ。

こういったことを多くの人に知ってもらい、理
解を深めてもらえるように、僕ももっとたくさん
のことを知り、勉強したいと思う。そして、偏見
や差別をなくしていきたい。

※院内学級・・・病院内に設置される病弱・身体

虚弱の特別支援学級

※内部障害・・・心臓、呼吸器などの機能障害

